みんなでクヌギの木を植えよう
石畳炭焼き学校「クヌギ山ごしらえ」

石畳炭焼学校（大木一校長）は３月20日、茶道炭の原木となるクヌギ山の手入れを通して自然や地域の文化を継承しようと、「クヌギ山ごしらえ」を行いました。当日は、済美高校の生徒など20人が参加。えひめ学生森林ボランティア代表・安藤哲次さんの指導でクヌギの苗木500本を植えた後、炭作りの過程などを見学しました。

「自然を守るため力になれたら」と済美高３年生の横山未歩さん▶

春の一日を家族と楽しんで
特別養護老人ホームみどり苑「桜まつり」

「入所者の皆さんに家族と一緒にのんびり一日を過ごしてほしい」と、特別養護老人ホームみどり苑の桜まつり（清水誠一実行委員長）が３月27日、同施設で開かれました。あいにく桜の開花には少し早かったものの、入所者は訪れた家族と共に、桜餅のサービスやバザー、移動動物園など、さまざまな催しを楽しんでいました。

移動動物園にはさまざまな動物が登場。ポニーの乗馬も体験▶

美しい小田川を残すために
小田川かわづくりワークショップ

第１回小田川かわづくりワークショップ（愛媛県、内子町共催）が３月29日、内子町共生館で開かれました。土砂の堆積が増えている小田川の河床掘削事業を行うに当たり、町民と行政が一緒になって、川の現状や課題、今後のあり方を考えていくことがねらいです。初回は約30人が参加し、小田川への思いや意見を出し合いました。

小田川の良いところ、悪いところなど、活発に意見を出し合う▶

古木桜の生命力をたたえながら
石畳地区「しだれ桜まつり」

樹齢250年以上ともいわれ県の天然記念物に指定されている石畳・東のしだれ桜の下で４月２～３日、しだれ桜まつり（東地区、石畳を思う会共催）が開かれました。同地域では２年前、幹の治療作業を実施。訪れた人たちは、３分咲き程度ながらたくさんのつぼみを付けた古木を眺めて、その力強い姿に感嘆の声を上げていました。

会場では地域特産の手打ちそばのバザーも。子どもたちもお手伝い▶

暮らしに生きる「ものづくり」
第16回暮らしの中の手仕事展

▲来場者は作品に触れたり、出店者と話しながら観賞

五十崎商工連盟匠会（上隅一郎会長）は４月２～３日、五十崎凧博物館で「第16回暮らしの中の手仕事展」を開きました。テーマは「こころみ　はがきサイズの宇宙」。11人の出展者が、１年かけて制作に取り組んだ木工や陶芸、和紙小物、ガラス細工などの個性豊かな作品を展示し、訪れた人たちに直接、こだわりや魅力などを伝えました。上隅会長は「ここにある作品は、使ってこそ良さが分かるもの。お客さんとのやりとりの中から学んだことをものづくりに生かしていきたい」と話していました。

女性の力で商店街に活気を
第２回「小田市だよ百円市だよ」

▲わずか30分ほどで多くの商品が売り切れに

小田中央商店街の女性たちがつくる「昔べっぴん母ちゃん連」は４月４日、同商店街にある交流スペース「陽温庭」で第２回「小田市だよ百円市だよ」を開きました。メンバー14人が手作りした煮物や巻き寿司などの総菜、ケーキなどが全て100円で販売されました。

世話役を務める西岡千代子さんは「商店街の活性化が目的。移動手段の無い高齢者の皆さんに、気軽に買い物を楽しんでほしいと始めました。今後も自分たちなりの方法でできることを続けていきたい」と話していました。

交通事故のない地域を目指して
おやこ交通安全教室

▲横断歩道の渡り方を練習する幼稚園児と保護者たち　◀愛媛県警音楽隊による演奏

新入学・入園の季節に合わせて、児童や園児に道路の安全な歩き方や自転車の乗り方を理解してもらい、交通安全に対する意識を高めてもらおうと４月15日、小田小学校で「おやこ交通安全教室」（南海放送㈱主催）が開かれました。小田地区の３つの小学校と２つの幼稚園から、児童・園児およそ100人とその保護者が参加しました。

子どもたちは大洲警察署と内子町交通安全協会の指導を受けながら、実際に道路に出て横断歩道の渡り方を練習。またグラウンドに作られたコースを自転車で走行し、安全な乗り方などを教わりました。

その他、愛媛県警察音楽隊による演奏や、白バイ・パトカーの乗車体験などが行われ、子どもたちは目を輝かせながら楽しそうに参加していました。

なお教室の様子はラジオで生中継され、県内のドライバーなどにも交通安全を呼び掛けました。